



コザ市 1950年代 宮城秀一「コザ残像」より

沖縄の戦後と女性のくらし

— 古都奈良の記憶から祈りをこめて —

沖縄の戦後のくらしを物語る生活用品や、米軍基地周辺の地域社会の変遷を記録した貴重な史料や写真を展示。さらに、朝鮮戦争期、奈良にあった帰休兵のための米軍慰安施設「奈良RRセンター」と、それをめぐる地域社会の葛藤を物語る当時の資料も同時展示。

奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター特別展示

平成23年7月23日(土)～8月7日(日) 初日のみ午後1時から公開

午前9時半～午後4時半 《入場無料》

記念館2階講堂 《重要文化財

旧奈良女子高等師範学校本館》

後援 協力 奈良女性史研究会

奈良市 1950年代 撮影 網谷四郎氏



軍事施設と女性のくらし

— 古都奈良の記憶から祈りをこめて —

7月30日(土) 午後2時～5時 記念館2階講堂

司会 吉田容子氏(奈良女子大)

報告 伊敷勝美氏(沖縄市役所総務部総務課市史編集担当)

大林美亀氏(奈良女性史研究会代表)

テーマ1 菊地夏野氏(名古屋市立大)

シンポジウム



近鉄奈良駅より北へ徒歩5分
JR奈良駅より市内循環バス
近鉄奈良駅前下車
*お車でのご来学はご遠慮ください。

お問い合わせ先
奈良女子大学アジア・ジェンダー
文化学研究センター
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL.0742-20-3611
FAX.0742-20-3612

沖縄の戦後と女性のくらし

— 古都奈良の記憶から祈りをこめて —

沖縄県第2の都市で、いまなお市の中心に広大な嘉手納基地を抱える沖縄市は、戦後沖縄の縮図ともいわれる。沖縄市では市史編纂事業の一環として終戦直後から復帰に至るまでの写真や生活用品を幅広く蒐集し、それらを市内に開設した「戦後文化資料展示室ヒストリート」(2005年9月7日南西諸島降伏調印60周年記念日に創設)・「ヒストリートII」(2009年9月7日開室)において公開展示している。そこには沖縄の地域社会が基地と共存してきた歴史が刻まれている。かつて「特飲街」とよばれた、Aサインバーを中心とした米兵相手の歓楽街もその一つである。

一方、奈良は古都のイメージが強く、軍事施設とは縁が薄いように思われがちだが、60年前の朝鮮戦争時期、この土地には米軍の慰安施設「RRセンター」が設けられ、その周辺には沖縄と同様な歓楽街が出現するなど、女性や子どもの生活に暗い影を落としていた。センター反対運動も起こるが、その存廃をめぐる問題は地域社会に分断と対立をもたらした。その様子は当時の奈良を舞台とした映画『狂宴—古都とアメリカ兵』(関川秀雄監督 1954 春秋プロ)にも描き出されている。また、1953年8月には奈良女子大学生を含む大学生グループがセンター周辺の地域社会の実情について独自に調査を行い、結果を『古都の弔旗』という名の冊子にまとめて発行した。これらは当時の奈良を今に伝える貴重な証言である。しかしながら、この「RRセンター」は短期間で神戸に移転したこともあって、現在では奈良にこうした「過去」があったことを知る人はきわめて少ない。アジアの軍事的緊張が懸念される今こそ、古都奈良に刻まれたこうした土地の記憶から沖縄の問題を考えたい。

戦後沖縄のくらしを伝える道具たち



軍用毛布で作った子ども服



米軍の弾薬箱を転用した衣装ケース



トタン板のおろし金



戦闘機の残骸のジェラルミンで作られた釜



ジェラルミンの鍋



ジェラルミンの炭火アイロン

シンポジウム

軍事施設と女性のくらし— 古都奈良の記憶から祈りをこめて —

7月30日(土) 午後2時～5時 記念館2階講堂

司会 吉田容子氏 (奈良女子大学)
報告 伊敷勝美氏 (沖縄市役所総務部総務課市史編集担当)
大林美亀氏 (奈良女性史研究会代表)
コメンテーター 菊地夏野氏 (名古屋市立大学)

● お問い合わせ先 ●

アジア・ジェンダー文化科学研究センター TEL:0742-20-3611 FAX:0742-20-3612 E-MAIL:a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp